



高江のヘリパッド建設阻止に県民は必死！

第二次大戦末期、米軍は沖縄県民を収容所に入れ、国際法に反して、住民の田畑、住居を奪った。数ヶ村をブルドーザーで壊し普天間基地とした。

米軍機が飛ぶのは

米軍機は近くの米軍住宅の上を飛ばない。米国の法律で禁止されているから。しかし、日本人の上は飛ぶ。

基地はベトナム戦争、イラク戦争など米国の侵略戦争の為。日本人を守る為ではない。

沖縄国際大学に米軍機が墜落したり、米兵犯罪が繰り返される根本原因はここにある。

東村にヘリパッド

ひがしそん 東村、国頭村の約半分を占める米軍北部訓練場は七八平方キロ。大田区の一・三倍だ。

ベトナム戦争当時、ジャングル戦の演習の為、住民はベトナム人の役割をさせられた。

米軍は不要な北部訓練場の一部を返すが、東村高江に、直径七〇mのヘリパッドを六つも建設せよという。辺野古に作る新基地のオスプレイ訓練の為だ。ヘリパッドができればオスプレイの騒音と廃熱にさらされる。

もう基地はご免だ

殆ど報道されないが、東村ではヘリパッド建設阻止に必死だ。県民一人当たり、本土の百倍の米兵がいる沖縄。基地強化に沖縄県民が反対するのは当然だ。政府は陸上自衛隊のヘリで工事車両を運搬。基地建設に自衛隊を動員して良いのか？ 皆さんはどう思われますか？

弁天橋

横浜市中区 桜木町駅そば



ここは大岡川の河口に近い。この弁天橋を渡ると桜木町駅はすぐ。

一九七〇年頃、海運にコンテナ化の波が押し寄せた。

それ迄は、沖に停泊した船からダルマ船と呼ばれた舢舨に積み替え、波止場まで運んだ。

夕方、荷役を終えた舢舨が、次々とこの辺りに来て停泊。舢舨の船尾が船頭一家の住居。即ち、舢舨を住まいとする水上生活だ。横浜にはこういう水上生活者が沢山いた。

停泊する場所も、時間も定まらないので、水上生活者の子供達は小学校に通つのも困難。見かねたクリスチャンの伊藤傳が戦争の最中一九四二年に子供を預かって教育する「日本水上学園」を創設した。今、そこは児童養護施設と養護学校になっている。